

英語**【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	a	c	b
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	b	d	a
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	d	c	d	c
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	a	b	a	a
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	d	d	a	a
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	b	a	c	d	a
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	a	c	b	a

【学習アドバイス】

2022年度の入試問題も前年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。全問マークシート形式の選択問題で、提示された科目の中から2科目を選択し100分で解答することを考慮すると、解答時間の目安は50分程度となる。この想定した試験時間に対し、無理なく解答できる難易度と問題数であると言える。

比較的難度の高い語彙知識を要求する設問もあるが、概ね難易度は大学入試入門～標準レベルであり、高校で学習する語彙・熟語、文法・語法などの基本事項の徹底と大学入試入門レベルの問題演習は必須であると言える。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

Ⅰ. 会話問題は、口語表現の理解を土台とした会話における文脈理解を問う形式である。日常で頻繁に使用される会話表現もあるが、その表現で使われている語彙を基に発言を理解し、文脈に照らすことで正解を導くことができるように作成されている。また、会話の頭から終わりまでの情報をきちんと把握しておく必要のある設問もあるので、空所の前後の情報だけで安易に選択肢を選ばずに、会話の最初から最後まできちんと読み解くことが大切である。

Ⅱ. 適語補充問題は、2～3行の英文内の空所に入れる適切な語を選択する形式である。文脈理解だけでなく、選択肢に挙げられている語の知識が必要で、正解となる語の中には、入試上級レベルのものもあるが、他の選択肢を活用すれば正解を導くことができる。レベルの高い語を覚えるよりも、入試標準レベルまでの単語をしっかりと身につけておくことの方がより大切であると言える。

Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題は、概ね入試標準レベルまでの語を用いたやや短めの英文が題材として選ばれており、文章の主旨が題名からわかるので、内容は理解しやすい。設問では、適語空所補充問題、主題にまつわる表現の理解を問う問題、下線部同意表現選択問題、内容一致問題などが出題されており、難度が高めの語には語注が付されてある。空所補充問題では、語彙や表現の知識と、周辺の文脈を丁寧に理解することが要求されている。内容一致問題は、文章中の細かい内容に関する真偽を問う部分があるので、文章を読む前に選択肢に目を通しておくことと解答しやすい。今年度の問題形式の中で最も特徴的なのは、主題にまつわる表現に関する設問である。いわゆる慣用表現であるが、表現で使われている語が平易なものであるため、安易に違う意味として誤解してしまうと、誤った選択肢を選んでしまう。文章の部分的な解釈だけに頼ることなく、文章全体の主旨と内容を理解した上で解答するという、基本的な姿勢で設問にあたるのが大切だと再認識できる。

Ⅴ. 文法・語法問題では、品詞の理解や時制などの基本的な文法・語法の運用力を問う設問が主である。様々な文法分野から出題されているが、とにかく、基礎力を土台とする問題が中心であるから、これまでに学習した文法事項は必ず復習しておこう。文法分析を徹底し、それを補うように文脈理解を行えば、必ず正解できる。

Ⅵ. 整序英作文問題は、和文が与えられている形式であり、比較的英文が作りやすい。学校で演習した問題に再び取り組むことはとても良い。そこで、一度解いた問題は、与えられている和文を隠し、英文と選択肢だけで解きなおしてみることをお勧めする。確実に正解する力を定着させることができる。

本学の入試問題では、確かな英語基礎力が求められる。つまり、今までの学習を怠ることなく理解していること、そして、それを身につけていることが必要である。人間は忘れる動物であることを考慮すれば、すぐに入試問題を演習するよりも、今まで学習したことを丁寧に復習し、自分の基礎力における「ほころび」を一つひとつ丁寧に修繕していくことがよほど大切なのである。そしてその後、徐々に入試問題演習へと一歩一歩着実に進めていくことが、合格への近道であると断言できる。